

言の葉は「言葉」～心の葉は「芯」～

2025年も残すところあとわずかとなりました。皆さんにとって、今年はどんな一年だったでしょうか？

5日に学園会選挙の立候補演説会が行われました。社学園として2代目の学園生会となり、7・8年生で9名が立候補しました。また、小学5・6年生も投票こそしませんが、一緒に体育館に入り、参加しました。立候補者は、演説会までの朝夕の挨拶や他学年の教室へ出向いて所信表明をするなどの活動を行ったり、後ろで見ている小学生にも伝わりやすいようにスライドを作成したりと、様々な取り組みに挑戦し続けました。不安や緊張を抱えながらも、堂々と話をしたり気持ちを伝えたりする立候補者たちの姿はとても立派でした。

さて、この時期になるとTVなどで「～ランキング」というものがよく紹介されます。ここで紹介したいのは今年で9回目になる「伝え方グランプリ」というものです。各種メディアから年間300以上の名言を集める「伝え方研究所」によって、特にステキな10の言葉がノミネートされました。この「伝え方グランプリ」は、人を傷つけたり、悲しませたりする言葉がSNSなどで氾濫する一方で、人を前向きにしたり、励ましたりする本来の言葉の力を見つめ直す取り組みとしてスタートしたそうです。

今年、1位に選ばれた言葉は…発信したのは女優、タレントの黒柳徹子さん。いろんな「なりたいもの」を試しては、「向いていない」と気づく日々を過ごしてきたそうです。黒柳さんはそうした経験をふまえ、「『なりたい』と思った職業に就いた人は少ない。90%は、私のように“偶然”なんです」「将来、どんな出会いがあるかなんて誰にもわからないんだから、好奇心の扉だけは、常に開けておいた方がいい」と言われています。

審査員のコメントには「私はこの言葉をあえて若い人たちに届けたいと思いました。最近は流行りでMBTIやイエベ、ブルベとかラベリングして、合わないものは「NO」となりがちだけど、そうじゃないものも好奇心をもってトライして欲しいなって思います。それでないと、合う人やものだけで生きていくことになってしまいます。」「ただ、面白いと思う瑞々しい感性がモノクロの日常に彩りを与えてくれる」などがありました。

言葉には、力があります。ネット・現実問わず、口から出てくるもの・見えるものは「言葉」です。好奇心のように「おもしろい」「なんだろう」という想い・心の言葉は、自分をつくる「芯」になります。

みなさんの好奇心の扉は、開いていますか？



グランプリ

**好奇心の扉だけは
常に開けておいた方がいい**

黒柳徹子さん（女優、タレント）
40～50代へのアドバイスを問われて



12月14日（日）に義士奉贊駅伝大会が家原の観音寺周辺コースで行われました。12月初旬から長距離のスペシャリスト達を集めて、期間限定の駅伝部として走り始めました。毎朝7時30分からの練習、大会コースの試走と念入りに準備をしました。結果は、男女ともにAチームが総合優勝、区間賞は男4名、女3名と、大変素晴らしい結果を残すことができました。

駅伝大会では、社学園中の生徒だけでなくどのチームも最後まで全力で走り抜きました。思うような結果が出たチームもあれば、悔しさが残ったチームもあったことでしょう。

「駅伝は、順位を競う前に、努力をつなぐ競技である」。日々の練習で積み重ねてきた努力、仲間と声を掛け合った時間、不安や緊張と向き合った経験。それらすべてが、タスキとともに確かにつながっていました。
駅伝で学んだ「仲間を思う気持ち」や「苦しい時に踏ん張る力」は、これからの中学校生活でも大きな支えになります。今回の経験を次の目標につなげていってほしいと思います。

「正解より全力」

伝え方グランプリ 番外編

アーティスト「JO1」の一員である豆原一成（まめはら いっせい）さんが、あるインタビューで素敵な言葉を紹介されました。それが「正解より全力」です。

ものごとに取り組むとき、ひとは、「正解」を求めがち。世間から「いいね」と言ってもらえる選択をしたくなるものですね。ですがむしろ、「自分が、悔いがないくらい全力で取り組めたら、それが正解じゃなくても過程には大きな意味がある」という気概で、取り組むのです。

正解より全力

豆原一成
(ボーイズグループ・JO1のメンバー)



ああ、なるほど！と、思いました。たとえ、はじめは正解と思われなくとも、全力でやっている、その過程によって、それが正解に「なっていく」ということがこの世の中には、たしかにあります。自分の目標を「全力で」追うことで、結果はどうあれ、それがだんだん正解になっていくという逆転の発想。夢を追う人、目標に突き進む人の「秘訣」がつまった言葉だなと思いました。（「伝え方研究所」HPより）

このように、言葉には「力」があります。しかし、「人を悲しませる」こともあります。特に、悲しいニュースや、SNSでの誹謗中傷など、今の時代は辛い言葉がたくさん発信されています。その反面、人を元気づけたり、励ましたりする力を宿すのも、言葉の特徴です。さて、2026年は、はたしてどんな年になるのでしょうか。人を前向きにさせる言葉たちとたくさん出会える「心温かい一年」になることを願っています。

